

3 少人数学習・TT指導

(1) 目標

- ①児童一人一人の特性に応じた指導を通して、児童のよさを引き出しながら、共に学び合う子どもの育成を目指すと共に、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ②児童が主体的に問題解決に取り組み、自分の考えを進んで表現できるように支援する。

(2) 児童の実態

- ①本校の児童は、能力の個人差が大きく、特別な支援を必要とする児童がほとんどの学級に在籍している。そのため、児童の実態に応じたより細やかな指導が望まれる。
- ②少人数学習・TT指導を継続的に行ってきたことで、「分かりやすい」「自分に合った学習の進め方で考えられる」「発表しやすい」等、児童や保護者は少人数学習やTT指導に対して好意的である。

(3) 今年度の重点（算数：少人数学習・TT指導の重点教科）

- ①単元の特性や児童の多様性に応じた学習集団を編成し、個に寄り添った指導の中で、児童の気付きや考えを生かしながら、問題解決へと導き、考える喜びや解決の喜びを感得する中で学び合いが深まるようにする。
- ②研究主題「課題解決に向けて、自ら考え、共に学び合う子どもの育成」を受け、話し合う力の育成を図る。
- ③基礎的・基本的な学習内容の定着に力を入れる。

(4) 校内体制及び連携

- ①学力向上対策委員会（研究推進委員会、少人数学習・TT指導担当）を校務分掌に位置付け、学年・学級の実態を考慮して実施計画を立てる。
- ②3年生以上の算数で少人数学習・TT指導を実施する。

ア単元に入る前に、レディネステストや既習事項の確認をして児童の実態を把握する。

その後、担当職員が随時相談しながら、弾力的な学習集団の構成を考えたり授業の進め方について打ち合わせをしたりしながら共通理解をもつ。

イ次の5点について打ち合わせを行う。

- ・単元計画の進め方
- ・教材や指導方法の確認と検討
- ・授業の進捗の確認と調整
- ・児童の学習状況についての情報交換
- ・評価についての検討と資料整理

ウ算数以外の少人数学習・TT指導

4年生、5年生、6年生の理科で教師2名以上によるTT指導を進め、科学的な思考力・表現力の育成を図る。また、職員の専門性を生かし、社会科や体育科、音楽科でも積極的にTT指導を実施する。

(5) 職員配置

①算数

学 級	担 任	少人数学習・T T担当
3年梅組	〇〇	〇〇 (5 h)
4年梅組	〇〇	〇〇 (5 h)
5年梅組	〇〇	〇〇 (5 h)
6年梅組	〇〇	〇〇 (5 h)

②理科

学 級	担 任	担 当・T T担当
4年梅組	〇〇	桐 原 (3 h)
5年梅組	〇〇	〇〇・〇〇 (3 h)
6年梅組	〇〇	〇〇・〇〇 (3 h)

③社会科

学 級	担 任	担 当
5年梅組	〇〇	〇〇 (3 h)
6年梅組	〇〇	〇〇 (3 h)

④体育科

学 級	担 任	担 当
5年梅組	〇〇	〇〇 (2.6 h)

⑤音楽科

学 級	担 任	担 当
3年梅組	〇〇	〇〇 (2 h)

(6) 具体的な施策

- ①職員の専門性も生かした担当配置とする。
- ②褒めて伸ばすを基本に、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。
- ③各単元に入る前には、レディネステストの結果やこれまでの学習の様子を考慮して、柔軟な学習集団の編成や学習の進め方などの計画を立てる。ただし、どのコースで学習しても、その学年で到達すべき技能や知識が身に付くよう指導内容を工夫する。
- ④児童の実態や単元の特性など学習内容に応じた多様な学習集団を編成し、少人数学習・T T指導によって児童の実態に寄り添った指導をする。
- ⑤研究主題に沿った共通実践事項を念頭に、学習集団に合った方法で自分の考えを表現し、相手に伝えるための工夫を行う。
- ⑥評価活動で児童の学習状況を把握し、適切な補充問題や適用問題で定着を図る。また個の実態や学習状況の進捗に応じて、さらに進んだ学習内容を準備し活用させる。
- ⑦少人数学習実施にあたっては、単元の特性を十分に把握し、保護者にも学習のねらいや計画、実施方法について事前に周知する。